

図17 病床数の割合 (中国・四国)

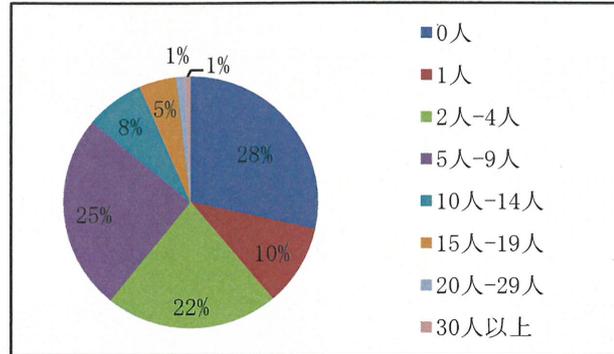


図20 臨床工学技士の人数 (近畿)

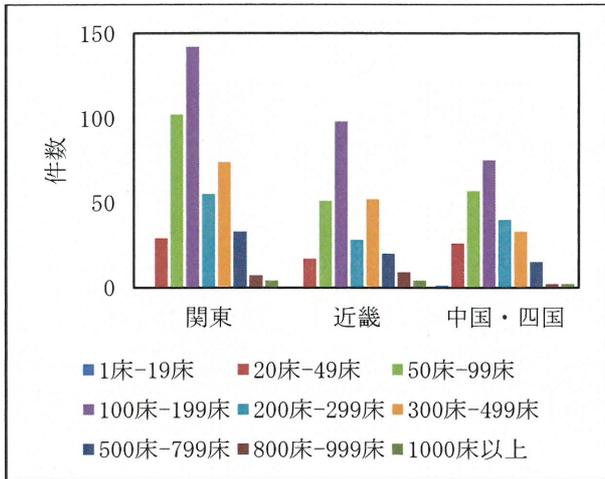


図18 所在地と病床数

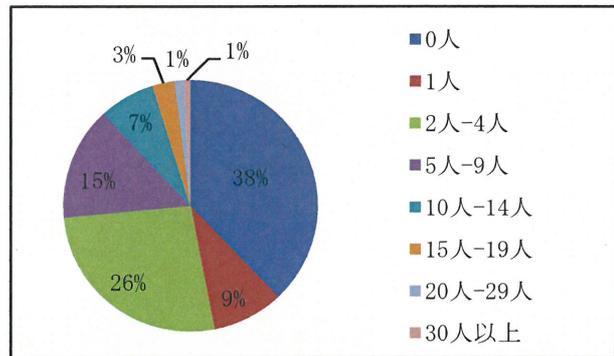


図21 臨床工学技士の人数 (中国・四国)

II. 臨床工学技士の人数について

【1】「所在地」と「臨床工学技士の人数」

所在地に関係なく「臨床工学技士」が全くいない(0人)の病院が多数あることが明らかとなった(図19-22)。

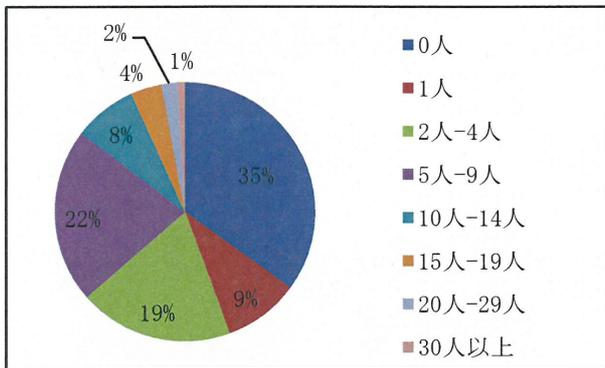


図19 臨床工学技士の人数 (関東)

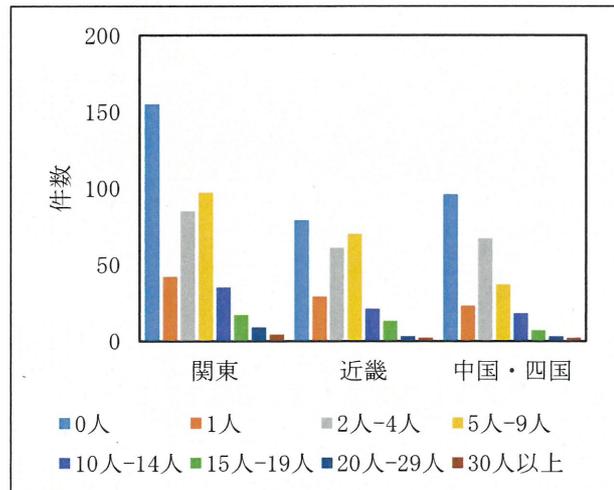


図22 所在地と臨床工学技士の人数

【2】「病床数」と「臨床工学技士の人数」

「臨床工学技士の人数」において、病床数が200床未満の病院では、臨床工学技士が「0人」の件数の割合が多い。また、臨床工学技士が「1人」以上いる病院においては、病床数が300床未満での臨床工学技士の人数は、「2~4人」が最も多く、次に「5~9人」であった。また、300床以上からは

「10~14人」や「20~29人」の件数の割合が多くなることが明らかとなった(図23-31)。

このプレアンケートでは、病床数の少ない病院の診療科を特定しておらず、必ずしも臨床工学技士を必要とする業務が無い可能性もある。しかし、「500~799床」程度の病院においても臨床工学技士が0人の病院も存在するが明らかとなった。

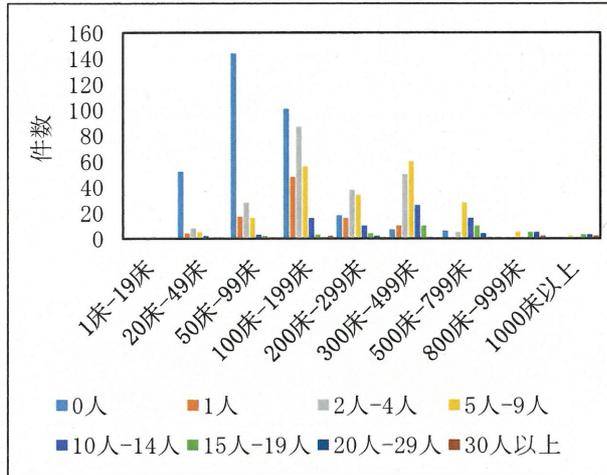


図23 病床数と臨床工学技士の人数

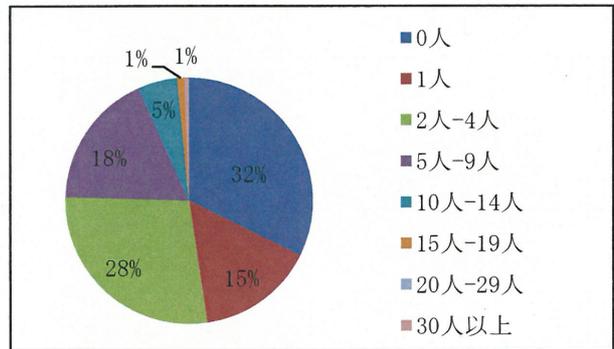


図26 臨床工学技士の人数 (100-199床)

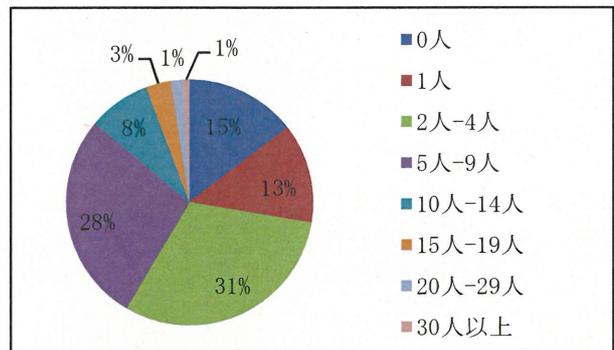


図27 臨床工学技士の人数 (200-299床)

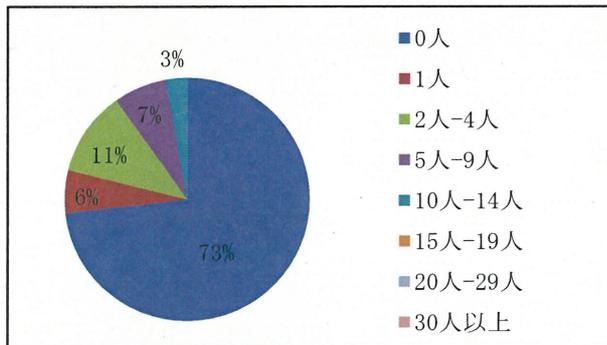


図24 臨床工学技士の人数 (20-49床)

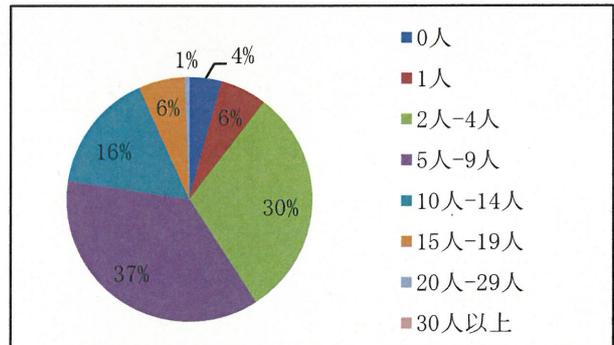


図28 臨床工学技士の人数 (300-499床)

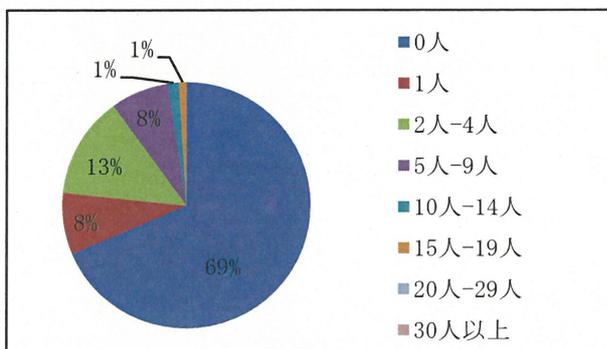


図25 臨床工学技士の人数 (50-99床)

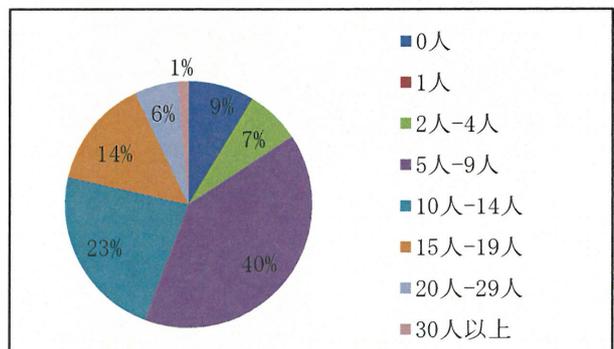


図29 臨床工学技士の人数 (500-799床)

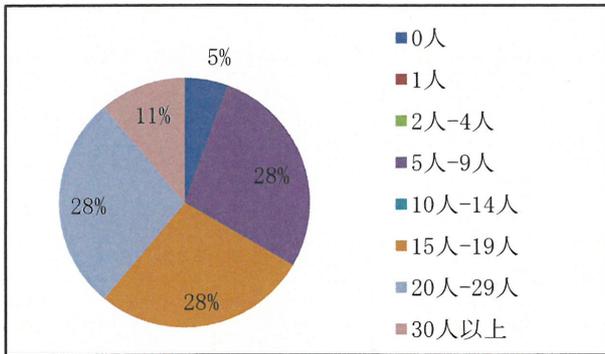


図 30 臨床工学技士の人数 (800-999 床)

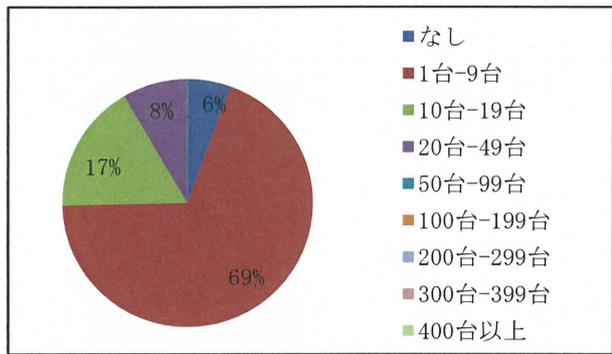


図 33 輸液ポンプの台数 (20-49 床)

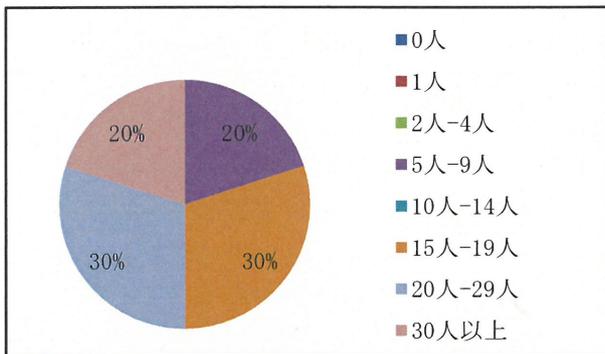


図 31 臨床工学技士の人数 (1000 床以上)

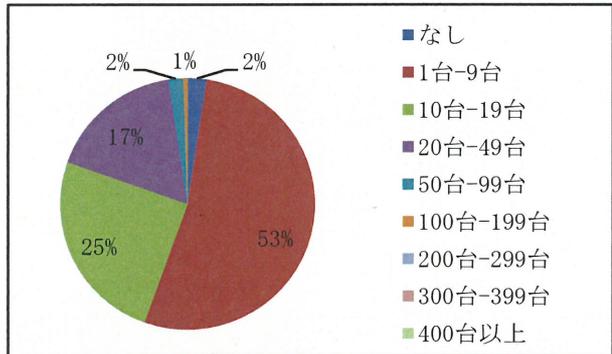


図 34 輸液ポンプの台数 (50-99 床)

Ⅲ.ポンプ類の台数、管理状況について

【1】「病床数」と「輸液ポンプの台数」

病床数が増えるに従って、輸液ポンプの台数が増加する傾向が認められた(図 32-40)。

しかし、病床数が「100~199 床」であっても、輸液ポンプが 10 台未満という病院も多数あることが明らかとなった。

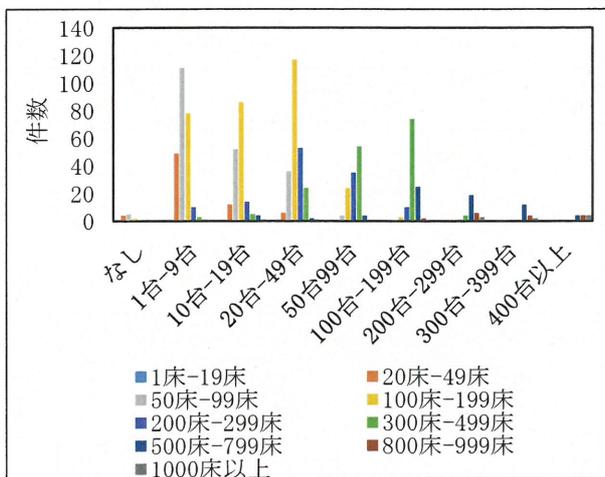


図 32 病床数と輸液ポンプの台数

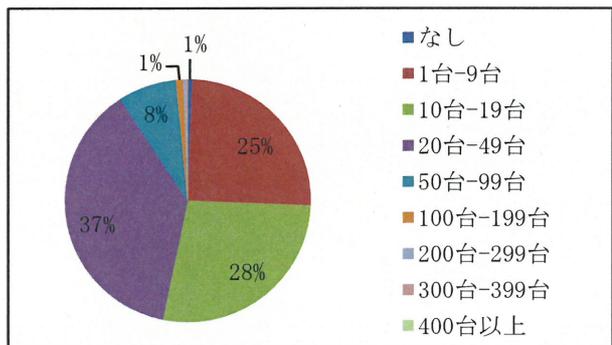


図 35 輸液ポンプの台数 (100-199 床)

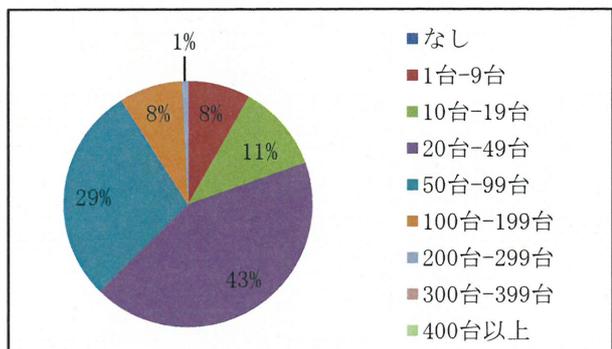


図 36 輸液ポンプの台数 (200-299 床)

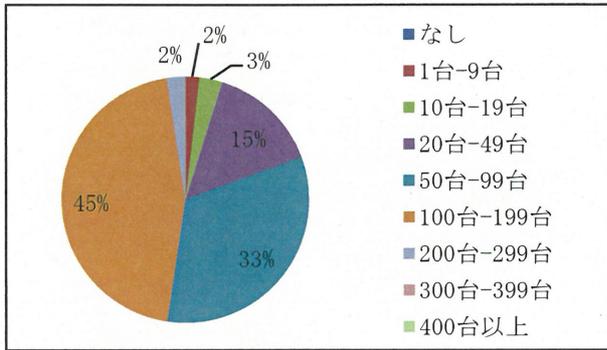


図 37 輸液ポンプの台数 (300-499 床)

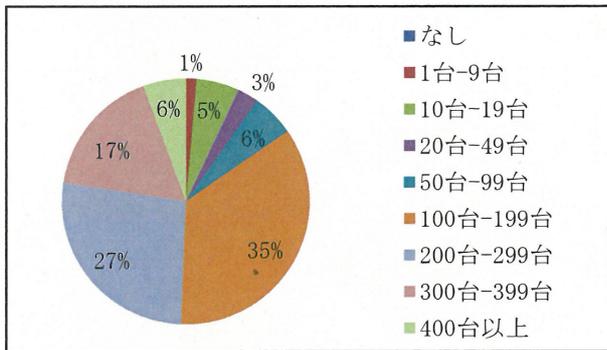


図 38 輸液ポンプの台数 (500-799 床)

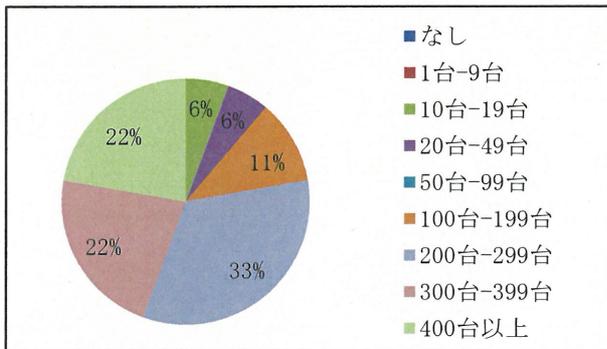


図 39 輸液ポンプの台数 (800-999 床)

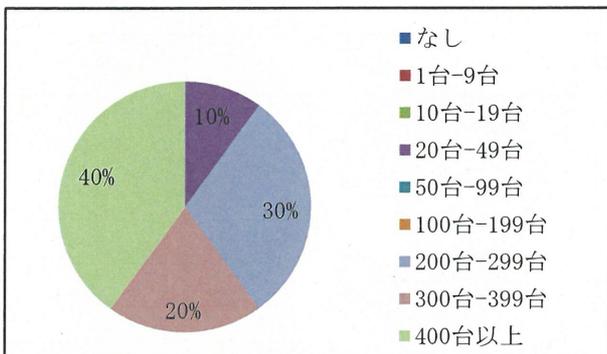


図 40 輸液ポンプの台数 (1000 床以上)

【2】「病床数」と「シリンジポンプの台数」

輸液ポンプの台数と同様に、病床数が増えるに従ってシリンジポンプの台数が増加する傾向が認められた(図 41-49)。こちらも病床数が「100～199 床」であっても 10 台未満という病院が多数あることが明らかとなった。

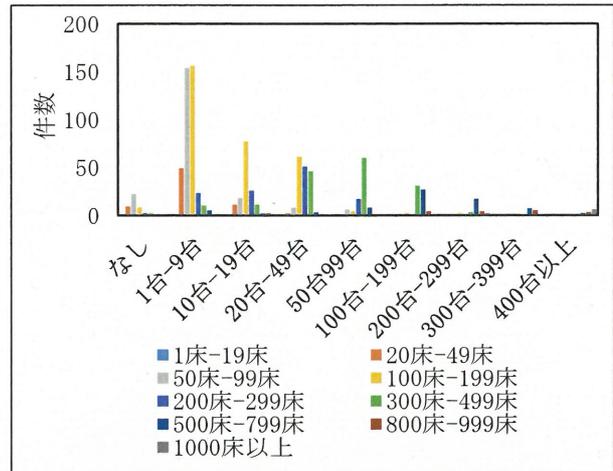


図 41 病床数とシリンジポンプの台数

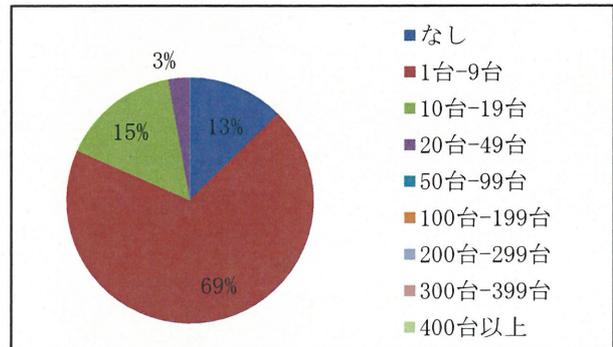


図 42 シリンジポンプの台数 (20-49 床)

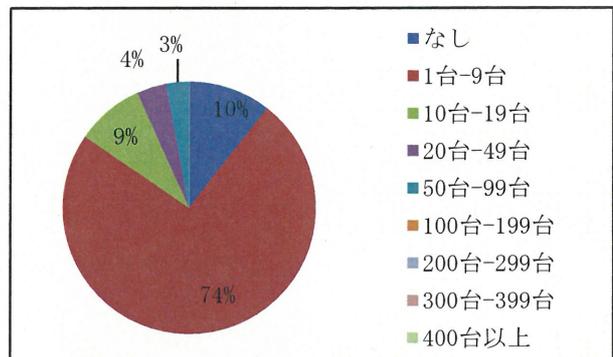


図 43 シリンジポンプの台数 (50-99 床)

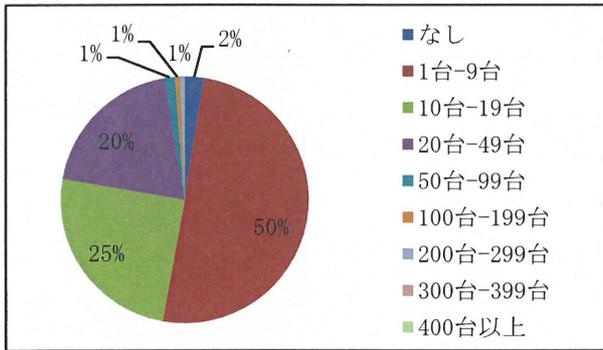


図 44 シリンジポンプの台数 (100-199 床)

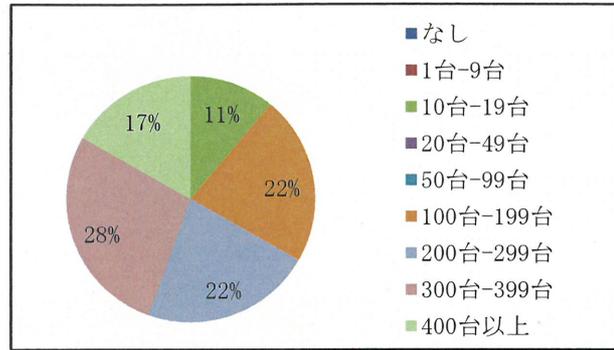


図 48 シリンジポンプの台数 (800-999 床)

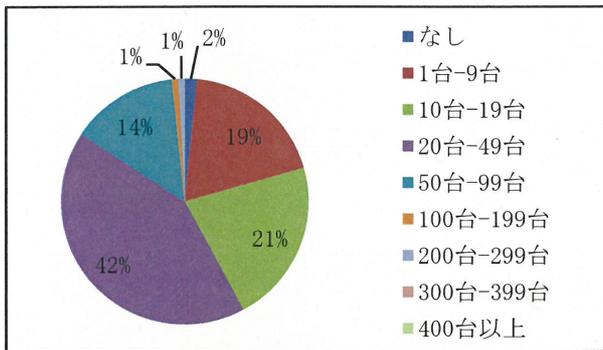


図 45 シリンジポンプの台数 (200-299 床)

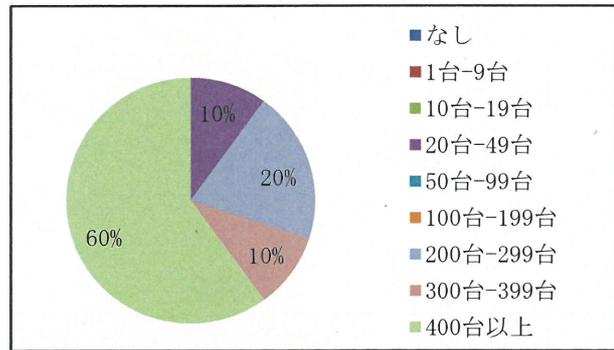


図 49 シリンジポンプの台数 (1000 床以上)

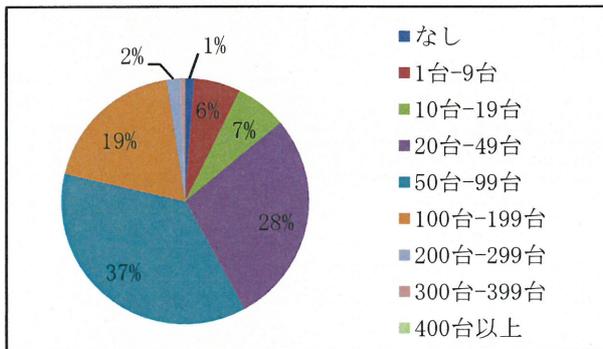


図 46 シリンジポンプの台数 (300-499 床)

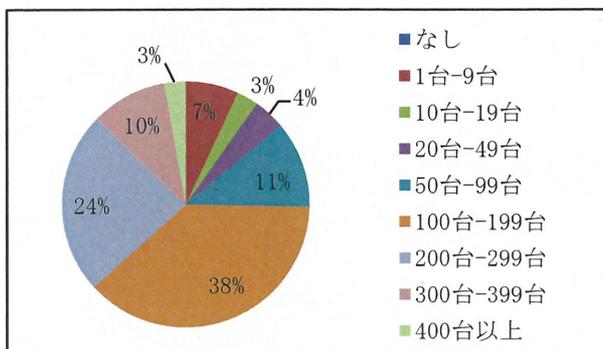


図 47 シリンジポンプの台数 (500-799 床)

【3】「臨床工学技士の人数」と「輸液ポンプの台数」
 臨床工学技士が全くいない(0人)の病院において、輸液ポンプの台数は「1~9台」が最も多かった。そして、臨床工学技士が「0人」の病院でも「10~19台」または「20~49台」が共に50件近くあった。全体的に、輸液ポンプの台数と臨床工学技士の人数との関係には関連性がないと思われた(図50)。

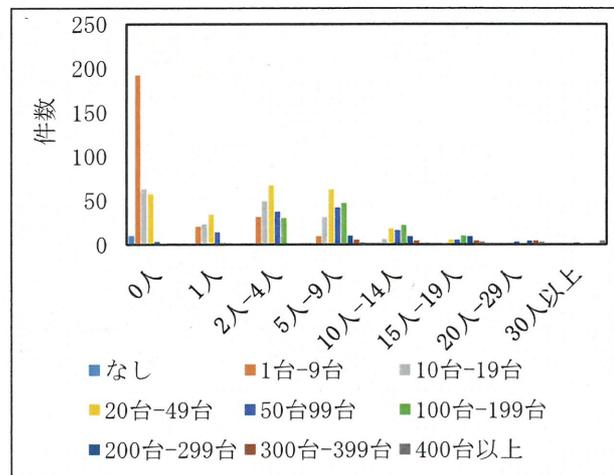


図 50 臨床工学技士の人数と輸液ポンプの台数

【4】「臨床工学技士の人数」と「シリンジポンプの台数」

輸液ポンプと同様に、臨床工学技士が「0人」の病院において、シリンジポンプの台数は「1~9台」が最も多かった。こちらも、シリンジポンプの台数と臨床工学技士の人数との関係には関連性がないと思われた(図51)。

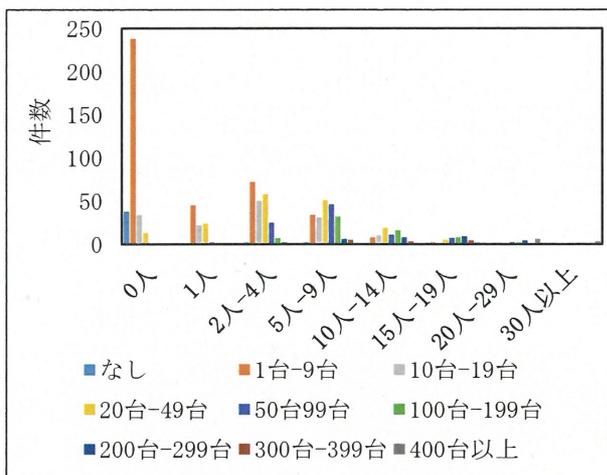


図51 臨床工学技士の人数とシリンジポンプの台数

IV. 日常点検について

【1】「所在地」と「日常点検実施者」

輸液ポンプやシリンジポンプの「日常点検実施者」について、所在地に関係なく「臨床工学技士」と「看護師」が中心となって日常点検が行われていることが明らかとなった。

「日常点検実施者」を「臨床工学技士」と「看護師」とで比較した場合、わずかに「臨床工学技士」の方が多い。しかし、「中国・四国」では看護師の方が多かった(図52)。

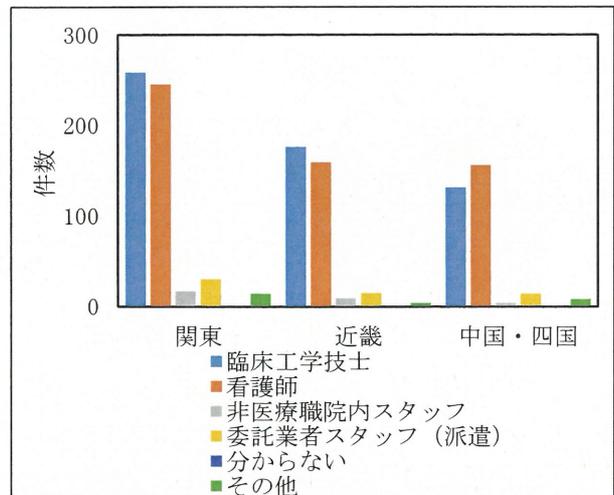


図52 所在地と日常点検実施者

【2】「病床数」と「日常点検実施者」

「日常点検実施者」を「病床数」別でみると、「100~199床」では、「臨床工学技士」と「看護師」の件数の比率が同程度であった。しかし、この病床数を境にして100床未満では「看護師」の方が多く、200床以上では「臨床工学技士」の方が多かった。これは、200床以上から「臨床工学技士の人数」が増加傾向にある事との関連性が示唆された(図53)。

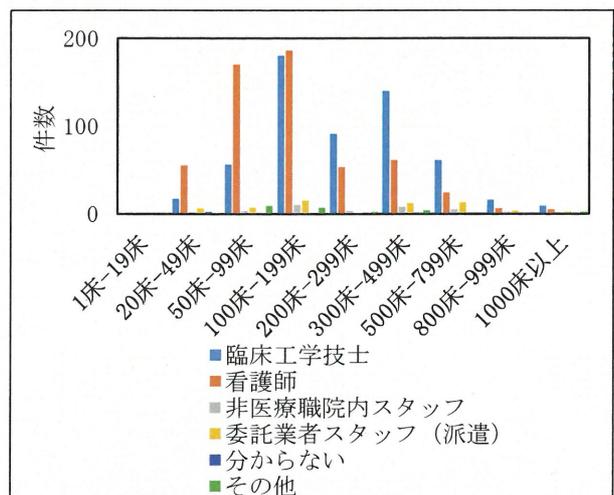


図53 病床数と日常点検実施者

V. 定期点検について

【1】「所在地」と「定期点検実施者」

「定期点検実施者」について、「所在地」に関係なく「臨床工学技士」がもっと多く関わっていることが明らかとなった。次に「医療機器メーカーもしくはディーラ」による定期点検が多かった。また、「所在地」に関係なく「看護師」が定期点検に関わっている病院があることが明らかとなった(図 54-57)。

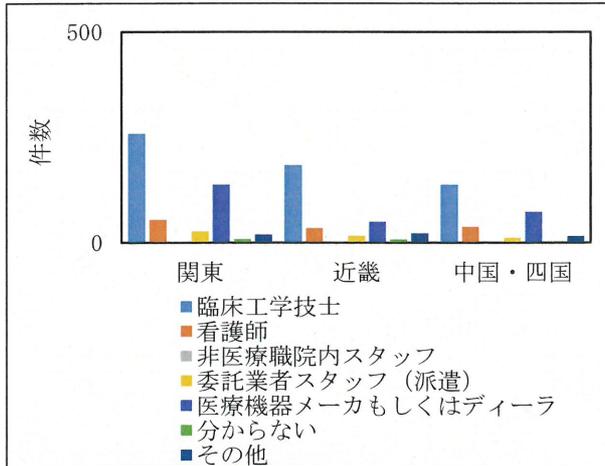


図 54 所在地と定期点検実施者

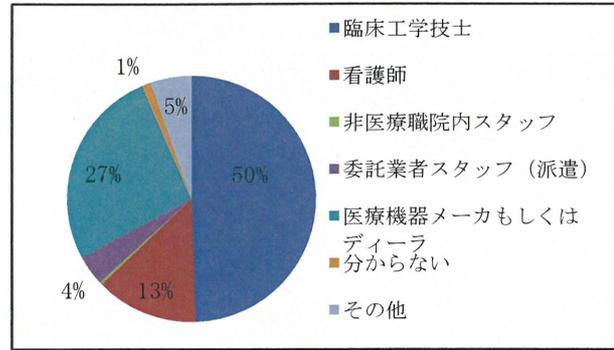


図 57 定期点検実施者(中国・四国)

【2】「病床数」と「定期点検実施者」

全ての病床数において、「臨床工学技士」と「医療機器メーカーもしくはディーラ」が定期点検に関わっていた。特に、100床以上の病院から「臨床工学技士」が定期点検に関わっている件数の比率が多い。

200床未満の病院では、「臨床工学技士」の他に「看護師」も定期点検に関わっている件数が多いが、200床以上から「看護師」が少なくなることが明らかとなった(図 58-66)。

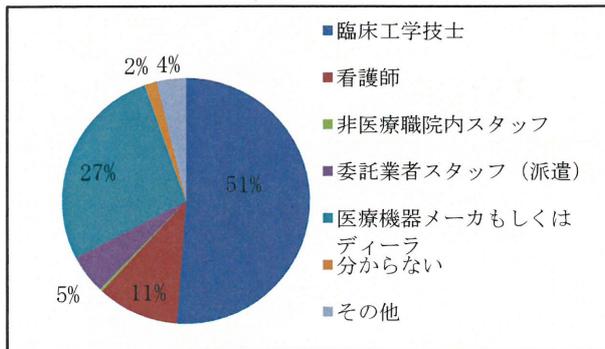


図 55 定期点検実施者(関東)

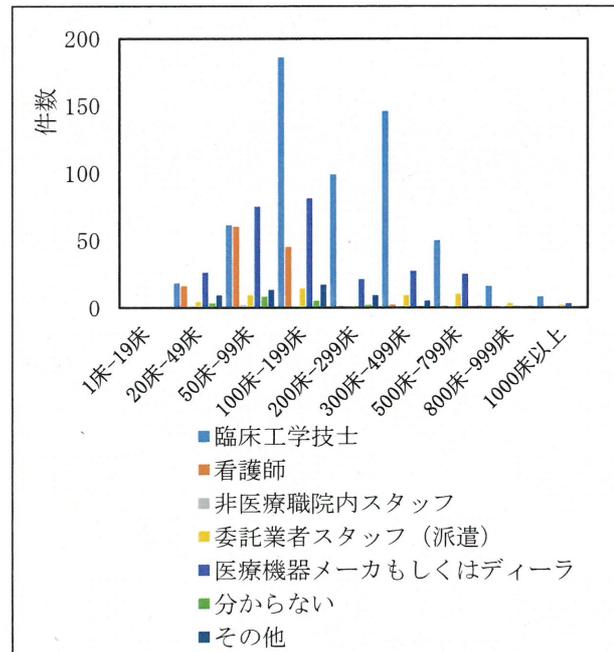


図 58 病床数と定期点検実施者

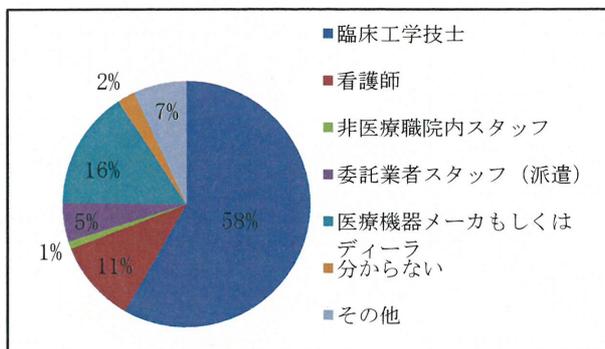


図 56 定期点検実施者(近畿)

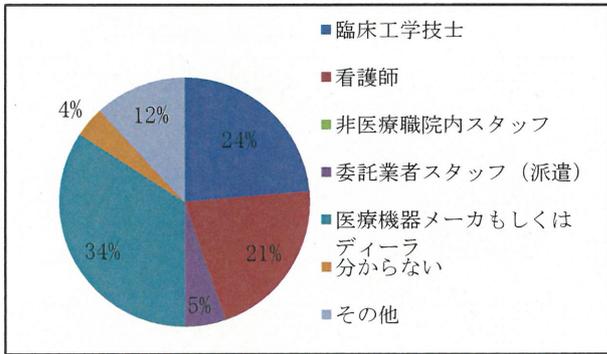


図 59 定期点検実施者 (20-49 床)

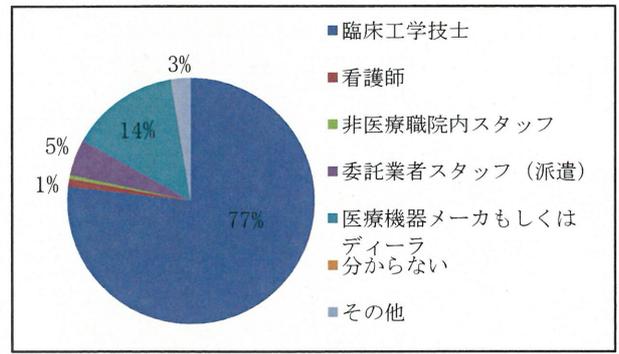


図 63 定期点検実施者 (300-499 床)

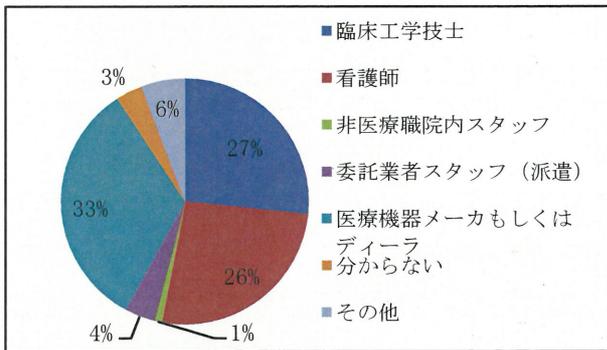


図 60 定期点検実施者 (50-99 床)

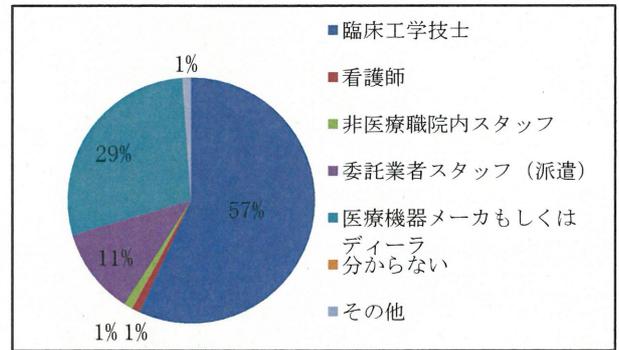


図 64 定期点検実施者 (500-799 床)

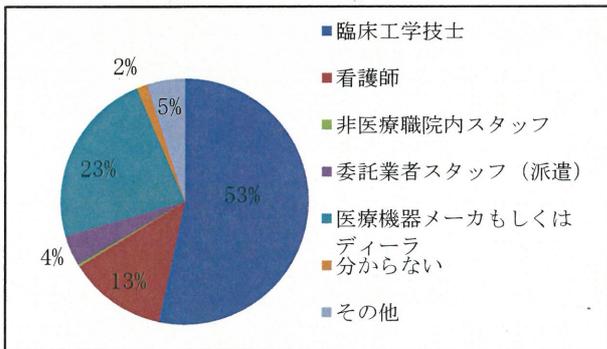


図 61 定期点検実施者 (100-199 床)

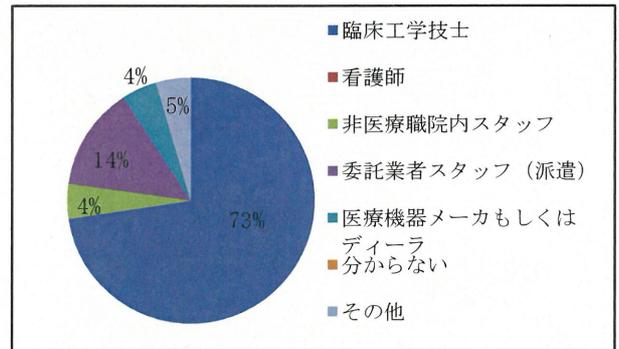


図 65 定期点検実施者 (800-999 床)

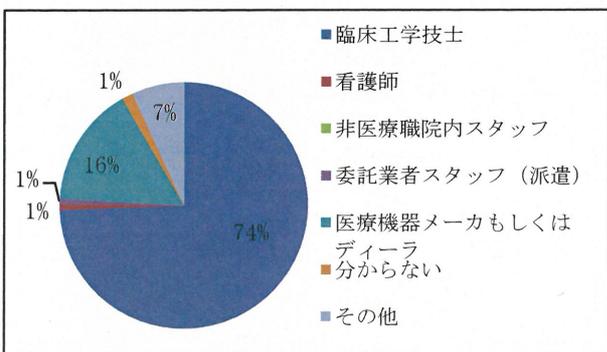


図 62 定期点検実施者 (200-299 床)

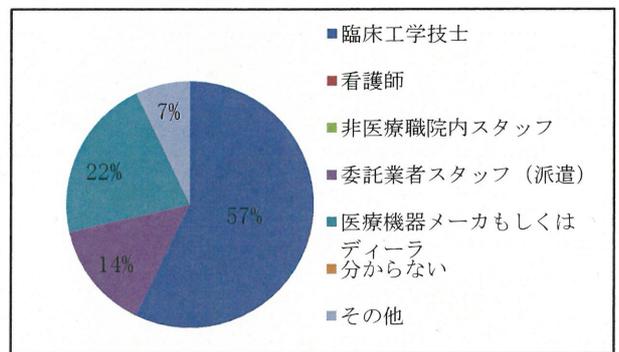


図 66 定期点検実施者 (1000 床以上)

VI.修理について

【1】「所在地」と「故障時の修理実施者」

「故障時の修理実施者」について、「所在地」に関係なく「医療機器メーカーもしくはディーラー」が最も多く、次に「臨床工学技士」であった(図 67)。

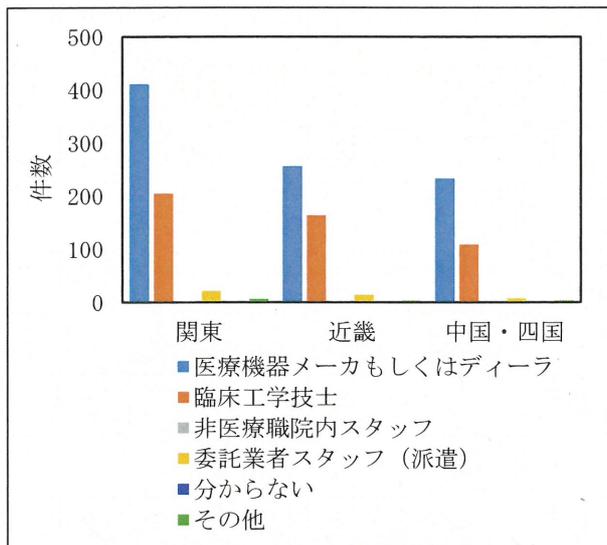


図 67 所在地と故障時の修理実施者

【2】「病床数」と「故障時の修理実施者」

「故障時の修理実施者」は、病床数に関係なく「医療機器メーカーもしくはディーラー」が最も多く、次に「臨床工学技士」であった。

しかし、200床未満の病院では、「医療機器メーカーもしくはディーラー」と「臨床工学技士」の件数の差が大きいが、200床以上からは「医療機器メーカーもしくはディーラー」と「臨床工学技士」の件数の差が小さくなるのが明らかとなった(図 68)。

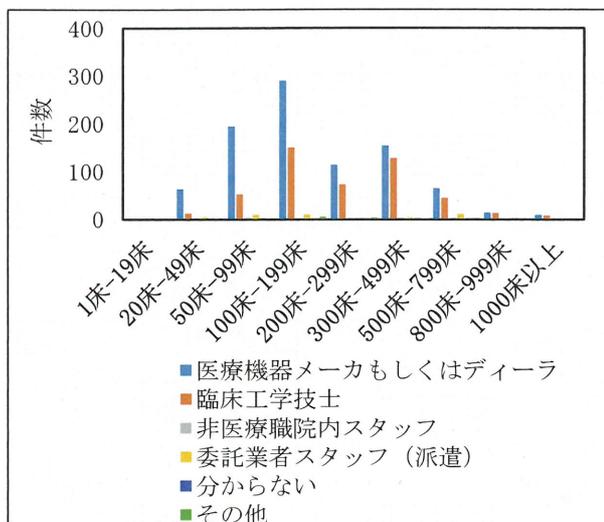


図 68 病床数と故障時の修理実施者

VII.中央管理について

【1】「病床数」と「ポンプの中央管理の状況」

「中央管理の状況」について、100床未満では「各病棟」で管理をしている病院が最も多かった。

100床以上から「中央一括管理」、「一部中央管理」を行っている病院が多くなり、「100~199床」と「200~299床」の病院において、「中央一括管理」と「病棟管理」との件数がほぼ同じ比率となっていた。300床以上から「中央一括管理」を行っている病院が多いことが明らかとなった(図 69)。

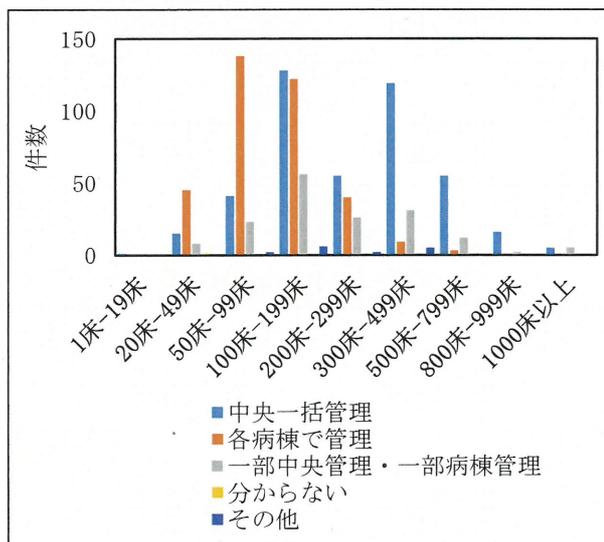


図 69 病床数とポンプの中央管理状況

総合研究報告書

【2】「臨床工学技士の人数」と「ポンプの中央管理」の状況

臨床工学技士がいない(0人)の病院において、「中央一括管理」を行っている病院が50件ほどあった。以降、臨床工学技士の人数が多くなるほど、「中央一括管理」を行っている病院が多いことが明らかとなった(図70)。

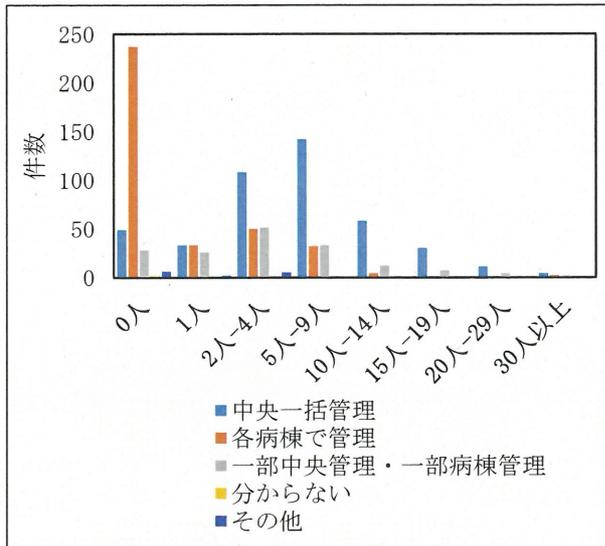


図70 臨床工学技士数とポンプの中央管理状況

【3】「病床数」と「ポンプ管理用に機器管理データベースの導入状況」

「機器管理データベースの導入状況」について、200床未満の病院において、「自作のシステムを導入している」病院が多い中で、「導入する計画はない」という病院も件数が多い事が明らかとなった。

「市販のシステムを導入している」病院は、100床以上から増え始め、病床数が増加するに従って導入する病院も増える傾向が認められた。

「自作のシステムを導入している」病院は、病床数に関係なく導入している病院が多いことが明らかとなった(図71-79)。

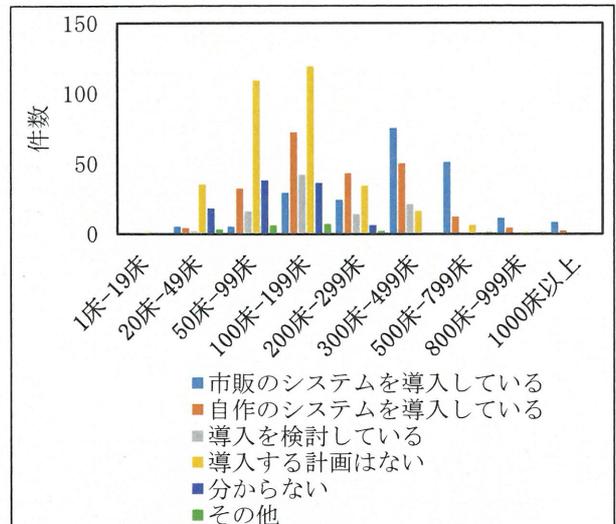


図71 病床数とポンプ管理用に機器管理データベースの導入状況

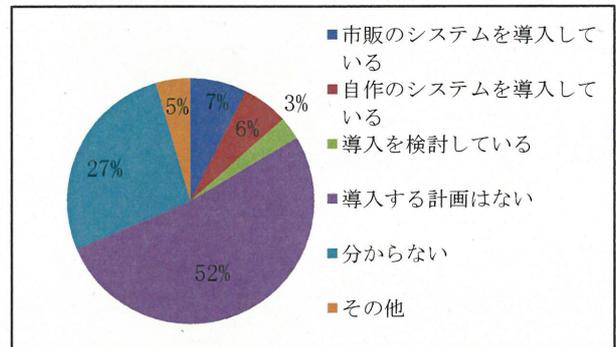


図72 ポンプ管理用機器管理データベースの導入状況 (20-49床)

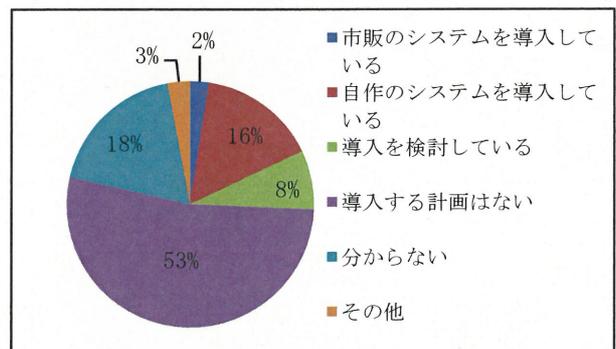


図73 ポンプ管理用機器管理データベースの導入状況 (50-99床)